

カレード 通信 Vol.52

2022年
2月号

小澤館長のコラム Vol.8

「カレードは図書館ではない」その理由は「複合施設だから」

この施設の正式名称は「学びの杜ののいち」と言います。「カレード」は愛称で、どこにも図書館とは書いてありません。よく図書館、図書館と言われますが半分間違いです。というのはこの施設は「図書館」+「市民学習センター」の複合施設だからです。実は私もうっかり「図書館」と言ってしまうことがありますが、すかさず市民学習センターの担当者に怒られます。さて、では「市民学習センター」とは何かと言いますと図書館部分を囲うように配置された諸室のことです。研修室・会議室、音楽スタジオ、キッチンスタジオ、創作スタジオ、それに広ーいギャラリーもそうです。図書館を使う人が創作スタジオを使ったり、音楽スタジオで楽器の練習をする人が本を借りて帰ったり・・・、ということができるようになっているのです。このカレード、どちらか一方を使うだけではもったいない。そんな施設なのです。(つづく)

図書館展示情報

一般展示 暦（こよみ）

美しい四季をもつ日本に暮らす私達。自然の移ろいに心を動かし「日暦」を意識しながら暮らしていけていたら、いつもよりも心豊かな1年を過ごすことができるのではないのでしょうか。



YA展示 冬季オリンピック特集!!

1月、2月のYA展示のテーマは「冬季オリンピック」です。2022年2月から中国・北京での開催を予定している冬季オリンピックを楽しめるように、開催地中国の事や採用競技のことがわかる本を中心に集めました。

東京オリンピックの感動をもう一度。

児童展示 本の中の図書館へようこそ!

本が好き! 図書館が好き! 子あつまれー! 図書館や本屋さんがテーマの本を集めました。図書館や本屋さんにはよく行くけど、それがテーマの本は読んだことがない、という人も多いのでは?

ぜひ、お気に入りの本を見つけてね♪

特集展示 劇団 nono 定期公演 関連本

2月12日(土)にフォルテで開催される、劇団 nono の定期公演に合わせて、関連本を展示しています。ぜひご利用ください。



このほか館内の様々な場所でも展示をしています。ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色んな本と出会ってください!

2月 February

日	月	火	水	木	金	土
		1 赤ちゃん おはなし会	2	3	4	5 陶芸教室
6 陶芸教室 生徒作品展 (~2/12まで)	7	8	9	10	11 料理教室	12 陶芸教室
13	14	15	16	17	18	19 陶芸教室
20 こども おはなし会	21	22	23	24	25	26 陶芸教室
27 かがく実験教室	28					

2月カレードイベント情報!

陶芸教室生徒作品展

会期：2022年2月6日(日)～2月12日(土)
時間：10:00～18:00 ※最終日12日(土)は16:00まで
会場：学びの杜ののいち カレード オープンギャラリー

カレードでは毎週土曜日の昼と夜に陶芸教室を行っています。
今回、その陶芸教室に通う生徒のみなさんによる3回目の作品展を開催します。あたたかな陶芸の世界をお楽しみください。



1月イベント報告

新春竹筆書道パフォーマンス



1月6日(木)にオープンギャラリー・市民展示室にて毎年恒例の竹筆パフォーマンスと書道体験会が行われました!

昨年よりも大きい縦約4mの和紙に、書道家の野田美代子氏が「学杜」、竹筆職人の岩下信正氏が竹の絵に今年の干支である「虎」の文字を書き添え、さらに周りには観覧していた皆さまによる寄せ書き風の書初めが行われました。どちらも迫力ある作品になっています。

また、書道体験会では参加していただいた方の中から10名に館長賞が贈られました。自分の名前や好きな食べ物、文字だけではなく絵で表現していたり、個性豊かな作品が勢揃いしていました。

パフォーマンスで完成した2つの作品は、カレードの南側ブックタワーに展示していますので、是非ご覧ください!

今月のおすすめ本

『漂流者はなにを食べていたのか』

著者：椎名 誠 出版社：新潮社 分類ラベル：290.9/シ

タイトルを見て興味が湧きませんか?あなたがいつか荒海のど真ん中に放り出され漂流するはめになったときのマニュアル本としてきっとお役に立つはずですよ。

小学生の頃に読んだ『十五少年漂流記』をきっかけに「漂流マニア」となった探検隊シリーズでも有名な著者が厳選した数々の漂流記を、生き残るために人は何をどうやって食べたのかという点に着目して紹介しています。生き延びた人たちの運や知恵、最後まで諦めない意志に感動してください。著者が称した海上の“暮らしの手帖”と言えるサバイバルの術をあみ出し、生還して記録を残せた人々がいる一方で、何倍もの人達が命を落としてしまっているのも事実なのです。

漂流者になる前にぜひ、一読されることをおすすめします。(スタッフI)

こちらの本は、カレードと富奥公民館に1冊ずつ所蔵しています。